

令和3年度第4回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日時 令和3年8月12日(木)13:00～14:10

2 場所 福知山市役所 6階 農業委員会室

3 出席者

委員	(リモート参加) 青山委員長、大久保委員、菊田委員、中井委員、細見委員
福知山市	田村室長、岸本課長、井上補佐、川村、中田
福知山公立 大学	(リモート参加) 内田GM

4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	【議題(1)】 令和2年度に係る公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価について	法人から【資料1-3】により説明。
2	【議題(1)】 意見交換・質疑等	(主な意見) <ul style="list-style-type: none"> ■ 志願者数の減少は大学運営の根幹に係わることであるため、どこかの項目で評価「2」をつけないといけない。 ■ 中期計画の中で、年度計画に志願者数の数値目標を記載できるような項目が無いことが問題。次期中期目標案には学生を確保するという文言があるので、年度計画に志願者数の数値目標を記載することができるようになると思われる。 ■ 大学として、志願者数の増減の要因を分析できるようにすることが重要。
3	【議題(2)】 公立大学法人福知山公立大学第1期中期目標期間の終了時の検討について	【資料2】公立大学法人福知山公立大学第1期中期目標の期間の終了時の検討に対する意見書について承認。
4	【議題(3)】 公立大学法人福知山公立大学第2期中期目標の策定について	【資料3】公立大学法人福知山公立大学第2期中期目標に対する意見書について承認。

5	【その他】 公立大学法人福知山公立大学 第2期中期計画の策定について	事務局から【資料4】により説明。
---	---	------------------

5 次第

(1) 開会挨拶 青山委員長

(2) 議題 (1) 令和2年度に係る公立大学法人福知山公立大学の業務の実績に関する評価について

(青山委員長)

業務実績評価書原案への意見書について法人から説明をお願いする。

⇒【資料1-3】により法人から意見書について説明。

(法人)

年度計画番号74は、財務内容の改善に関する目標になっており、評価を判断する基準が「定員充足」が中心であると認識しているため評価「3」が妥当であると判断している。志願者数に関しては、中期計画番号10に記載がある。

(委員)

- 前回の評価委員会の中で、志願者数の減少は財務面では問題がないと回答いただいたが、志願者数が減少するということは、優秀で多様な人材の確保ができていないという大学の本質的な問題であるので、評価「2」としている。ただ、年度計画番号74は財務内容の改善に関する目標ということであれば、年度計画番号9、10に評価委員会からの意見を記載することでもいいかと思う。
- 定員が充足しているということで、短期的には問題がないかもしれないが、今後人気のある入学したい大学にするということを目指して、ひいては財務的にも良いかたちで運営にプラスになっていくのではないかと。評価のポイントにあるように志願者数が前年度を下回った要因の分析を進めていただき、次年度に連鎖しないよう努力願いたい。
- 根幹となる志願倍率が落ち込んでいるということは厳しい状況であると思う。ただ、年度計画番号74というのは自己財源比率の増加の項目で、定員充足が計画にあがっており、法人がおっしゃることももったいなので、年度計画番号9の優秀で多様な人材の確保の項目の評価をどうするかという話になるかと思う。年度計画番号9について、志願者数が減少しているので厳しい状況ではあるが、計画の実施状況を読んだら大学の方々の努力が伝わるので評価はそのままにして、年度計画番号74にある評価委員会からの意見を年度計画番号9に記載することでよいと思う。
- 今回の年度計画番号74の評価「2」について、当初、年度計画番号9で評価すべきだと思ったが、その項目は中期計画で地域枠を含む入学者選抜方法を策定するとなっている。そして年度計画では志願者数850人を目標におきながらも、具体的な募集広報活動を記載されていた。この項目を三たん地域の受験者を確保するという観点で見れば、新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、精力的に募集活動をされたの

で、ここは志願者数が減少したという現実を見据えても、取組はそれなりにされているということで評価「3」としている。年度計画番号74を評価「2」とした理由は2つある。1つ目は、他大学並みの競争倍率の確保にも努めると明記されているが達成できていないことに対し評価「3」とした合理的な説明がないこと。これは国公立大学の隔年現象で昨年度志願倍率が高かったところの揺り戻しが多少あるということも理解ができるが、やはり、明確な説明が必要である。2つ目は、旧大学の志願状況がどのようなものであったかということ。福知山公立大学は京都府の中で京都市内でもなく、地方の学生も集めづらいという立地的なことなど様々な条件が厳しいところからスタートした大学であり、絶対にもう二度と定員割れを起こしてはいけないというミッションで公立化をしている。やはり評価というものは福知山公立大学の強みと弱みを自覚、他覚することのために非常に大切な指標であり、オール「3」のようなものであってはならない。志願者を確保するということを大事にして欲しいという観点から評価「2」にした。

- 年度計画番号74は財務の内容についての項目であることは十分理解している。その項目に、他大学並みの競争倍率の確保にも努めると記載があるということは大学側になにか意図があったのではないかと考えられる。志願倍率の減少が新型コロナウイルス感染症の影響であるということの合理的な説明があり評価「3」とするなら理解ができる。ここでは年度計画にある他大学並みの競争倍率の確保ができていないことを厳しめに見て評価「2」とした。

⇒ (法人) 新型コロナウイルス感染症の影響で遠方の地域に募集活動に行けず、その地域からの志願者数が減少したということはあった。ただし、これは他の大学も同じような状況であるし、影響を詳細に分析しているわけではないので委員会からいただいた評価を受止め、今後の課題にしたいと考えている。

(委員)

- 年度計画番号9が志願者数に係る項目ではあるが、実際にはこの項目で地域重視という方針もたてておられて、コロナ禍でも努力されているので評価「3」としている。その中で委員会の評価をどうするか意見を伺いたい。
- 年度計画番号9は、実績からみて評価「2」に変更する必要はないと考えられる。年度計画番号74は、他の委員がおっしゃるように他大学並みの競争倍率の確保に努めるとあるのでこのままの評価「2」でもよいかと思う。どちらかの項目に評価委員会として志願者数の減少を問題視しているということは記載しておきたい。
- 年度計画番号74に他大学並みの競争倍率の確保にも努めるとあるので、評価「2」で結構だと思う。
- 志願倍率がここまで下がったということはどこかで評価「2」はつけないといけないと考えている。その観点から年度計画番号9のあるページを見たら、③入学者の受入れに関する目標を達成するための措置となっており、その中に本来であれば入学者の獲得に係わる数値目標を記載しておくべきであると考えている。志願倍率と入学者の確保は大学運営の根幹であるので、そこははっきりと目標をたてておくべき。中期計画にはアドミッション・ポリシーの周知と入学者選抜方法の策定という2点しかなく、年度計画に志願倍率について記載できる項目が無いような気がする。そこで、年度計画番号74に競争倍率について記載していることは、大学の教職員の皆様が真剣に考えているということであると思うが、それを年度計画として記載できるところがないということが課題なのではないか。
- そもそも、中期計画番号10、年度計画番号9、10の項目に志願倍率を記載するべ

き。少なくとも、中期計画では優秀な人材を確保する、といったような文言があり、その具体的なものが年度計画におとしこまれて、志願倍率何倍程度を目標にするということがあり、そのために以下の活動を実施するといったような作りこみになるところなので、各委員の皆様もどう評価すべきか、というところを迷われたのではないかと思う。第2期中期目標の案では学生を確保するという文言があり、それに応じて中期計画がたてられるので、もう少しこのところは法人側も評価委員会側もできたか、できていないかということがはっきり評価できるようになるのではないかと思う。評価については、原案のとおりでよいのではないか。年度計画番号9、10か74のどちらかで評価「2」をつける必要がある。志願者数が減少したことに、概ね達成しているという評価を評価委員会がつけるということについては責任を持てた評価であると思えないので、本筋から言うと年度計画番号9のところで評価「2」とすべきであるが、今回年度計画に他大学並みの競争倍率の確保に努めると明記されているところが年度計画番号74なので、現状の評価のまま評価「2」としてよいのではないか。要は、法人側がどちらの項目であれ評価「2」がついたことを受止め、次年度、志願者確保のための活動にしっかり取り組んでいくということにつながる事が大事。

- 志願者数の減少について将来に向けて警鐘を鳴らすということが重要。中期計画番号10では地域枠を含む入学者選抜方法を策定するということが記載されているので、選抜方法については確かに年度計画に記載されており、それを実施したということになっている。志願者確保や志願倍率はほかの項目にも記載されていない。であるので、今回は評価の変更なしでいきたいと考える。

(3) 議題(2) 公立大学法人福知山公立大学第1期中期目標期間の終了時の検討について

(青山委員長)

委員会としては第1期中期目標の期間の終了後も引き続き、法人に業務を継続させることが妥当であると市に意見書を提出したいと考えているが、よろしいか。

(全委員)

異議なし。

(青山委員長)

それでは、この意見書を市に提出させていただく。

(4) 議題(3) 公立大学法人福知山公立大学第2期中期目標に対する意見について

(青山委員長)

委員会としては原案を適当と認める意見書を市に提出したいと考えているが、よろしいか。

(全委員)

異議なし。

(青山委員長)

それでは、同じくこの意見書を市に提出させていただく。

(5) その他：公立大学法人福知山公立大学第2期中期計画の策定について

(青山委員長)

公立大学法人福知山公立大学第2期中期計画の策定について事務局から説明をお願いします。

⇒【資料4】により事務局から説明。

(委員)

- 第2期中期目標に基づいて令和4年度の年度計画が提出される。年度計画を策定する際にできるだけ数値目標を設定いただきたい、ということは何らかのかたちで法人にお伝えしたい。ただ、重要なことは年度計画に数値目標を入れるということになると、非常に慎重な数値目標になるという傾向が無きにしも非ずであるが、公立大学を発展させていくために積極的な意味での数値目標を出し、教職員の方々がお持ちの想いを大学の運営に、あるいは教育に反映させるためにもその数値目標を達成するという心構えをもっていただきたい。年度計画に委員会が意見する機会があるか。

⇒(事務局) 令和4年1月に中期計画の認可を予定しているので、その際に意見書を提出してはどうかと思う。

(委員)

- 評価がすべて「3」になるような目標設定は間違っている。例えば、年度計画で、看護師や理学療法士などの国家資格の合格率を100%とすると、100%を達成しても評価「3」となるので、果たしてその評価指標でよいのか、ということになる。一人でも不合格になると評価「2」となってしまう。ということで、評価指標の置き方も毎年の中で変えていかないといけないのではないかと。達成した計画については、どんどん項目を削除していく。要は法人自体が強みと弱みを自覚して、それを意識できるようなPDCAにしないと、評価が形骸化してしまうということを厳しく問われている。基本は数値目標を置くが、置き方は非常に重要。法人には第2期ではその意識を持っていただきたい。先ほどの志願者数の動向というのは法人の努力だけではどうにもならないことではあるが、少なくとも志願者数の増減の要因、特に三たん地域への働きかけは、なにができてなにができていなかったかを分析できるところまでいかないといけない。私立の法人は志願者数が命というほどにシビアに受け止めておられるので、やはりそこは明確に数値目標をおく必要がある。数字がクリアになると、今回公務員の合格者数が増加したので全員が評価に値するという事で評価「4」に上げるということもできると思う。メリハリのついた評価をできることが理想であると考えている。
- 今回の評価を通して、やはり数値目標が無いと、これをどうやって評価するのか、ということになる。やはり、大学の先生方には数値目標の達成に向けて努力していただくというような観点が必ず必要だと思うので、ぜひ第2期中期計画の認可の際には年度計画に何らかの評価指標を入れることをご検討いただきたいという意見書を法人に提出いただきたい。

(青山委員長)

令和2年度の業務実績評価全体を通してのご意見、ご感想を各委員からいただきたい。

(委員)

- 大学の運営は非常に大変であり、多方面での検討を必要とする。今回も非常に多くの評価項目を提示いただいていた。その中で数値目標が非常に重要な評価の基準となる。大学と双方意見を出し合いながら評価をしていけるということ、また大学の運営について様々な方面から意見を述べていけるということについては、貴重な経験をさせていただいていると思っている。
- 今年度、第1期中期目標期間が終わるということで、初年度のことを思い出していた。初年度の年度計画、年度実績では大学が記載していた内容をどう評価していいのか難しい項目が多々あった。それを振り返ると、今年度は年度計画もかなり整理されて、内容が評価しやすかったので、大学が日々進歩されているということであると思う。また、第2期中期目標でさらに良いかたちの大学になりそうであるということが見えている。今後も福知山公立大学が良いかたちで発展して、優秀な学生が多数受験してくれて、定員を優秀な学生で充足できて、そして卒業生がこの北近畿でも活躍してくれて、地域の振興に貢献してくれるような大学になることを願っている。6年目となり、非常に良いかたちになっているということを実感している。
- 振り返ると前の大学がなぜあのような状況になっていたのか、市民としても不思議なくらいよくない状況であったが、公立大学が設立されてたった6年間でこのように素晴らしい大学になっているということが嬉しい限りである。6年間志をもって努力された経営者の皆様と教職員の方々、学生の方々がよい相乗効果の中、今日まで来られていることが、また次の6年間も同じように続いていくことで、この地域が他の地域と一味違うということの核になるような存在になり、今後も大学が発展していくことでこの地域の発展の大きな役割を果たしていただくことを願っている。評価を通じて大学のことを深く知る機会が得られたことは市民の一人として大変貴重なことであったと感謝している。
- 法人の努力は誰もが認めるべきところ。やはり不安な中で走り出したところであったが、単純に人口が増加したということだけではなく、実際に地域の方、企業にも恩恵がもたらされたと実感している。業務実績報告書も抽象的なことがなく、ずいぶんしっかり記載されるようになり、質が上がったのではないかと思う。法人の関係者の努力には敬意を表すべきである。第2期中期目標期間では、外部資金をしっかりと獲得できないとまわらないというスキームの中でやっていかないといけない。現在、公立大学は全国で94校（令和2年5月1日時点）ある。その中には、都市型の大規模大学、経済系単科大学、医療系大学、新しい類型として3セクで設立した大学の救済的な意味合いで設立された公立大学があり、世間からは厳しい目で見られるところがある。一方で、山梨県の都留文科大学、群馬県の高崎経済大学といった都市部に立地しているわけではないが、全国から優秀な志願者が集まるところがあり、できれば福知山公立大学にはそこを目指していただきたい。立地のハンデをクリアできるだけの卒業生の活躍があるというようになっていただきたいという強い願いがある。大学院が設置され、規模が大きくなる中で、やはり第2期中期目標期間は、単に定員割れを起こさない公立大学ではなく、目標となる優秀な人材を地域にも、それから日本国内、世界にも輩出できるような大学を目指していただきたい。
- 都留文科大学、高崎経済大学、会津大学など非常に特色ある公立大学ができています。以前、アメリカの産業クラスターを取材、調査し、レポートを書いていたが、全米、あるいは世界から学生や研究者を集めている州立大学があった。ノースカロライナ州の大学では学内にリサーチパークをつくり、世界から様々な学生や研究者が集まり、連保政府の予算であったり、NASAの予算であったり、様々な機関から多額の研究資金を獲得していた。これは理科系であったが、理科系ががんばると、文系も自分たちの

存在意義を示すためがんばるというような、切磋琢磨がある。福知山公立大学は、現状では地元出身の学生の比率が低いですが、これを無理やり100%や80%に上げるべきではないと考えている。上げたとしても50%くらいでよいと思う。全国から、あるいは世界からも学生が来て学んでいけるような大学となり、その方々がまた様々な場所で活躍できるようになっていただきたい。アメリカでも州の特色を生かした地方の大学、あるいは先生方の特色を生かした大学をつくって、そこに全世界から学生や研究者が集まってきて拠点となっているというところがある。私は今、福知山公立大学はそのようになれる可能性を秘めていると確信している。教職員の方々がこれまでと同様ご尽力を続けていただくことが福知山のステータスをさらに高めることになると思っているので、ぜひ地域経営学部と情報学部と協力して、もっとすばらしい大学にしていっていただきたい。

(6) 閉会